

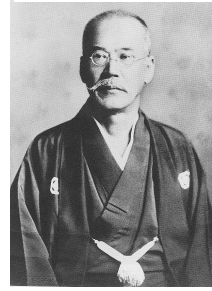


福崎町立
柳田國男・松岡家記念館
〒679-2204
神崎郡福崎町西田原
1038の12
電話：0790-22-1000

松岡家の三男

井上通泰

井上通泰は、松岡家の三男として、慶応2(1866)年に生まれました。



そして、11歳のときに神東郡田原村吉田の井上家に養子に入ります。このときに、幼名の泰蔵から通泰へと名前を改めます。

井上家は代々眼科医を生業としていたため、通泰も医学の道を進みます。

一方、通泰は史学、文学への関心を幼いころから持ち続けており、開業医としての傍ら、歌人、国文学者として研究を積み重ねていきます。

森銚三氏は回想録「井上通泰先生のことども」の中で「医学を修めたのも古典研究の上に、緻密に物を考へることを学んだわけで、決してむだにはならなかった」と、通泰が語ったと書いています。

また、医院を開業してから余った時間を著述にあて、訪問者に対して面会を断ることもあり、相手の心象を悪くすることもあったが、「どうも致し方なかつた」と通泰が述懐したと記しています。

このことから、通泰が古典研究への情熱を常に持ち続けていたことがわかります。通泰の絶え間ない努力によって生み出された成果の一つに『播磨國風土記新考』があります。

本年度の特別展では、この著書を取り上げて、通泰の風土記研究を紹介します。

名作著書紹介

故郷七十年を 読む

柳田國男は、『故郷七十年』の中で、井上通泰のことを「次兄」、「井上の兄」などと記しています。なぜなら、國男が物心ついたときには、通泰は井上家に養子に入っていた



柳田國男・松岡家記念館

☆☆入館案内☆☆

- ☆☆開館時間
9時～16時30分
(入館は16時まで)
- ☆☆休館日
月曜、祝日の翌日
12月28日～1月4日
- ☆☆入館料
無料

からです。幼いころ、國男は「井上の兄さん」と呼んでいました。

通泰の養家である井上家を國男は遊び場としていました。その中で、通泰が養子に入った際になかなか居つかず、苦勞したという話を聞いています。養母は枕元にお菓子や玩具などを並べていました。また、通泰が好きなときに遊びに来てもらうように近所の男の子に声をかけていたそうです。このようなことを知って、幼かった國男は、「羨ましくてたまらなかつた」と回想しています。

井上家は、國男に対しても大変世話を見てくれました。

しかし、國男の母親はそのように井上家に行っては気の毒だといって、月に1回か2回しか行かせてくれなかつたといえます。けれども「ほとんどその家の子供みたくに育ったものであった」と記しています。

トライやる・ウィーク!実施

6月4日から8日にかけてトライやる・ウィークが実施されます。

今年は、福崎西中学校生2名が記念館での仕事を体験に来館します。

その成果の一部を記念館で展示する予定です。



先月号でお伝えしました「平清盛」の画稿の補修が完了しました。

今回の修復では、以前から破損した箇所裏打ちをして紙を取り除いた上で、軸装がされました。

職人さんの技と感性によって、「平清盛」が際立つ生地と風袋が選ばれ、掛け軸に生まれ変わりました。

「平清盛」は、企画展終了後も、展示をしていますので、ぜひご覧ください。



平清盛 補修前

平清盛 補修後

